

一九五四年（四四歳）

一月十五日

吉田内閣の臨時閣議は生活保護費を九二億削った九九九四億円の大砲予算案を決定し、二十四、五日の議会に提出するという。議会では可決されるだろう。

患者の治療が恐ろしく制限されている。病院の経費が著しく困難になってきている。

六月六日

下獄までの一週間の行動計画をたてる。

六月七日

六月二日から五日休んで、今日から診療に従事する。〇〇さん、ヒロポン吐血で死んでゆく。

六月八日

大清水病院の完全看護施設のために三上常務、西谷、今井両理事、秋田顧問が大清水に集まり対策を協議する。

六月九日

午後三時から市医師会事務所に斎藤会長、鳴海理事、小島先生、石郷岡先生、生理学の佐藤教授修先生とともに、明日の県医師会総会の対策をねる。医師会活動に参加する最初の日であった。

六月十一日

検察庁に電話して下獄の日を十四日午前十時と決定する。夜、労組男子部から送別会設けてもらう。

六月十二日

病院では、明日の下獄を控えて、給料（五月分）を渡してくれない。誰かここまで心配してくれる人のないのが、私の病院の欠点である。その責任は私にあるのでもあるが致し方ない。私から請求して二万五千円うけとる。午後、吉内に父母を訪ねる。畑の中で選果をしていたところを訪ねる。夜十二時半まで、父母、弟、妻の五人で将来のことを論じあう。

八月二十五日

七十三日目、青森刑務所出所。貸切りのバスで、ショウ、吉内の両親、兄弟たち、病院関係の人数六〇人迎えにきてくれる。一旦、和徳におちつき、関係者と相談し、品川町大清水に顔を出す。大清水で岩間さん、兼平さんたちに泣かれる。夜、太田さん、野呂夫妻見舞いにくる。九月十日まで休養することにする。微熱三十七。二度出る。両

親にかける心配は、これで終りにしないければならない。

八月二十六日

出獄の挨拶状を書く。痰あり、ストマイを注射し、パスをのむ。

八月二十七日

よる引田、沢辺、中村、境沢先生とビールをのむ。これを医局生活の第一歩にしたい。

八月二十八日

私とリンゴの年譜

日露戦争前 一九〇三年 母が嫁として吉内にくる。

粗放、放任主義栽培より、個別的に世話するようになる。ヒメクイ虫を袋掛けで迎える。

日露戦争の好況により増殖時代にはいる。

一九〇五年九月五日

日比谷の焼討ち国民大会

(一九〇六年 竹館村相馬貞一による産業組合法による産業組合創立)

一九一〇年八月二日

武一生れる。リンゴの大増殖はじまる。

文作山一町五反歩の増殖。産業組合の繁栄。リンゴの大増収。傾斜地への栽培（外崎嘉七の和歌山の視察）

一九一四年 第一次欧州大戦はじまる、青島陥落十一月七日

一九一五年 大正四年七五郎隠居

陸軍特別大演習。リンゴ園の荒廃しながら耕地面積の拡大。

一九一七年 ロシア革命。武一小学校。

一九二三年 大正十二年 武一弘前中学へ。

九月一日 関東大震災。不逞鮮人よばわり。手押し噴霧器から動力噴霧器へ。

大正十一、十二、モニリアの大発生。モモシンクイ虫（ハリトーン虫）大正九年より盛んとなる。矮化主義より大樹主義へ。

昭和二年 武一弘前高等学校へ。銀行とりつけ。

(大正十三年普通選挙)

昭和三年 三. 一五事件

昭和四年 四. 一六事件

昭和五年 (十九三〇年)

武一、東京帝大へ。 浜口首相暗殺。

一月十一日 金解禁実施。

四. 二〇 ロンドン軍縮会議

昭和六年 満州事件

昭和七年 (一九三二年) リンゴ不成

武一、治安維持法にて検挙（二十三歳）
（六月十一日） 五. 十五事件

昭和九年（一九三四年）

武一出獄。リンゴ不成

昭和十年（一九三五年）

武一 入営

昭和十一年（一九三六年）

武一、除隊、陸軍大演習への参加

十月七日結婚。上京。東京池袋町に住む。

昭和十二年（一九三七年）

武一（二十八歳）東京大学に復学

七月七日 中国への侵略戦争。

昭和十四年（一九三九年）

武一医学士となる。

昭和一六年（一九四一年）

八月一日、武一（三十一歳）召集。

昭和二十年（一九四五年）

敗戦、召集解除。共産党への参加。リンゴの荒廃

昭和二十一年（一九四六年）

武一、衆議院選挙に立候補して落選

昭和二十二年

武一 衆院立候補。田茂木町に家を買って居を移す。

代官町に診療所開設ショウとともに働く。

昭和二十三年（一九四七年）

武一、政令二〇一号に関わる。荒井さんと事件をおこす。

昭和二十四年

武一仙台に移る。

昭和二十五年

武一弘前に帰る。

昭和二十七年

診療所を保健生活協組に移す。

十月一日

胎盤の埋没、組織移植について各先生と話し合う、例月の医師会議において。

十二月三十一日

警察の干渉も考えられるような気配もあったので、四月下獄を決意し、金沢医大に中村先生の赴任を交渉する。色々な意味で政令による下獄を延期しておくことの不利であるのを知ったので、五月下獄を決意す。